

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年1月4日作成 (株)新出光

【月次概況】

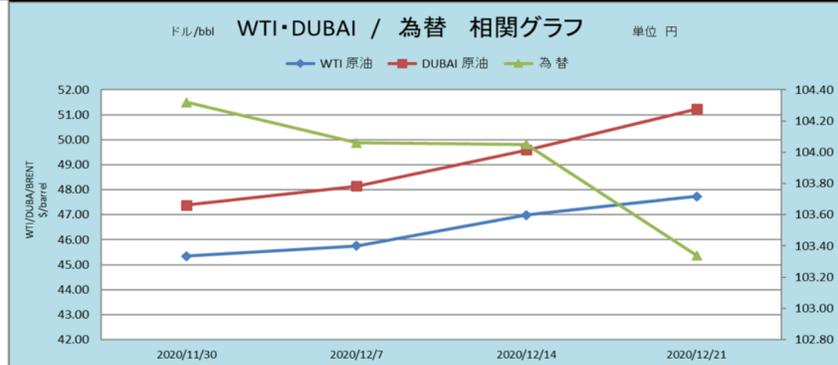
●第1週、週末12/4のWTI原油は、先週比0.55ドル高の46.26ドルとなりました。OPECプラスは、1月から減産規模を日量50万バレル縮小し720万バレルとすることで合意しました。1月以降は、毎月会合を開き生産枠を決定することとしたため緩やかな増産ペースとなることに安心感が広がりました。また米追加経済対策の早期成立期待や新型コロナウイルスのワクチン早期実用化見通しを受けてエネルギー需要に対する楽観的な見方が広がりました。

●第2週、週末12/11のWTI原油は、先週比0.31ドル高の46.57ドルとなりました。今週は、新型コロナウイルス感染拡大によりカリフォルニア州で外出制限やニューヨーク州では、14日から店内での飲食が禁止されることとなるなどエネルギー需要の見通しに警戒感が広がり原油が売られました。また米エネルギー情報局(EIA)が9日午前に発表した週報によると4日までの1週間の米原油在庫は、1520万バレル増と大幅に増加したことや製品在庫の増加を受けて下落しました。しかし米ファイザーと独ビオンテックが共同開発したワクチンは、英国で接種が開始されておりカナダでも承認され米国での承認も近いと見られワクチン普及で経済が正常化すればエネルギー需要も回復するとの期待が、原油相場を下支えました。

●第3週、週末12/18のWTI原油は、先週比ドル2.53ドル高の49.1ドルとなりました。米ファイザーと独ビオンテックが共同開発したワクチンの接種が、14日米国で始まり米モデルナのワクチンも早ければ週内に許可が下りる見通しで、経済が正常化すればエネルギー需要が回復するとの期待が高まり原油が買われました。また米エネルギー情報局(EIA)が16日午前に発表した週報によると11日までの1週間の米原油在庫は前週比310万バレル減と、減少幅は市場予想の190万バレルを上回りました。製品在庫は、市場予想を下回る積み増しにとどまり需給緩和懸念が若干後退しました。

●第4週、12/24のWTI原油は、先週比0.87ドル安の48.23ドルとなりました。感染力の強い新型コロナウイルスの変異種が英国で確認され、ロンドンでは、ロックダウンになり感染拡大防止のための制限措置強化の動きが、欧州や中東諸国にも広がりました。一段の制限措置によって経済活動が停滞しエネルギー需要にも影響を及ぼすとの懸念が再燃する中、原油も売られました。また米エネルギー情報局(EIA)が23日発表した週報では、原油在庫は前週比60万バレル減少しガソリン在庫は110万バレル減と、予想の120万バレル増に反して取り崩しディストレート(留出油)在庫も230万バレル減と、予想の90万バレル減よりも大幅な取り崩しとなりました。この週報を受けて、需要回復の期待が広がり相場は、上昇しました。また英国と欧州連合(EU)の自由貿易協定(FTA)締結交渉がいつに妥結し買い意欲を支えました。

	12月平均	WTI原油	47.07ドル	前月比	5.72ドル	為替 1ドル	104.84円	前月比	△0.57
--	-------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------



ENEOS	日付	変動幅	出光昭和シェル	変動幅
	12/1~12/2	±0		±0
12/3~12/9	+2.0	+2.0		
12/10~12/16	+0.5	+0.5		
12/17~12/23	+1.0	+1.0		
12/24~1/6	+0.5	+0.5		

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	2020年7-9月C重油決定価格	0.5HPP	ENEOS LS船用燃料油基準価格
	41,350	41,350	【41,350(メニュー)+2,000(プレミアム)】
	40,690	40,690	【40,690(メニュー)+2,000(プレミアム)】
	40,920	40,920	【40,920(メニュー)+2,000(プレミアム)】
決定価格7-9月比	-430		

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	2020年7-9月(決定価格)	適合油価格	A重油
	48,100	48,100	48,500
	47,900	47,900	
	48,000	48,000	51,700
決定価格7-9月比	-100		3,200

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	20/11	9桁速報	27,837	42.28	104.68	-1,700
	20/12	最終予測	29,438	44.98	104.06	1,601
	21/1	展望	33,194	50.26	105.00	3,756
	21/2	展望	34,790	52.43	105.50	1,596

【12月市況】

●第2週の元売価格変動幅は「+2.0円」の値上げでした。木曜日はコスモの改定のズレを利用した玉が残っていたために、市況の上げ幅を抑えていましたが、金曜日の価格としては、コスモ玉と入れ替わりに月間リンクの仕入れ玉が安値で台頭し、市況形成のディーラーが変化したため、市況の上げが再び抑えられています。

●第3週の元売価格変動幅は「+0.5円」の値上げでした。値上げ後月間リンクの玉を扱うディーラーが市況の天井と見て販売を強めるとの見方が大方の予想でしたが、下がりにくい原油相場を見てか、製油所周りで大きく下げて販売をしていく向きはあまり多くありません。

●第4週の元売価格変動幅は「+1.0円」の値上げでした。原油コストとしても+0.5か+1.0円なのか判断が微妙なところでしたが、改定後はほぼ値上げが浸透しました。影響力のある広域ディーラーも値上げや油種によっては出荷停止となったことも相場を押し上げる要因となりました。灯油も全国的な寒気から需要は徐々に増加しており、値上げは浸透してきています。

●第5週の元売価格変動幅は「+0.5円」の値上げでした。改定後はガソリンを除いておおよそ値上げが浸透しました。灯油は年末年始での寒波が予測されており、需要は旺盛です。また配送面で余裕がないことや月内枠の消化が進んだことで市況の値上げが各地で見受けられます。さらに出荷規制が日本海側を中心に再度入り始めていますので、その影響で配送繰りが厳しくなっています。

【1月価格変動要因】

●需要面: 欧米ロックダウン強化の一方で、英・米でのワクチン接種が開始されました。各種月報では、需要見通しが下方修正され、IEAは供給過剰が2021年末まで続く予想しており需要面は弱く下げ要因です。

●供給面: 11月OPECプラスの順守率は101%と良好ですが、生産枠の無い国の増加が目立ちます。リビアの生産回復に加え、イランはバイデン政権誕生を見越して輸出増加しています。ベネズエラもシェブロンにライセンスを再付与するなど枠組外での増産が懸念されるため供給面は、やや強く下げ要因です。

●リスク資産(金融市場): 新型コロナウイルスのワクチン接種開始やバイデン氏当確、米経済対策の合意等が材料となりやや上げ要因です。感染者数やロックダウン報道を受けての調整局面を挟みつつも、結局は金融緩和継続に対する安心感、景気回復期待からリスクオン相場は当面続く見込みでありやや上げ要因です。

●地政学: 再びサウジアラビアの石油タンカーが攻撃され、紅海に面したジッラ港が閉鎖されました。攻撃をした親イランのフーシ派が米英を挑発するなど中東地政学リスクは上昇し上げ要因です。

＜価格見直し＞

(単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	55	50
Average	50	47
Low	45	42

日付	国	1月経済指標カレンダー	日付	国	1月経済指標カレンダー
5	米	12月ISM製造業景況指数	20	欧	12月消費者物価指数(HICP, 改定値)
6	米	12月ADP雇用統計(前月比)	21	日	黒田東彦日銀総裁、定例記者会見
6	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨	21	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁定例記者会見
7	欧	12月消費者物価指数(HICP, 速報値)	21	日	日銀金融政策決定会合、政策金利発表
7	米	12月ISM非製造業景況指数	22	日	12月全国消費者物価指数(CPI)
8	米	12月非農業部門雇用者数変化	27	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)政策金利発表
8	米	12月失業率	27	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長定例記者会見
8	米	12月平均時給	28	米	10-12月期 四半期実質国内総生産(GDP, 速報値)
13	米	12月消費者物価指数(CPI)	29	米	12月個人消費支出(PCED, デフレーター)
15	米	12月小売売上高	29	米	10-12月期 四半期雇用コスト指数

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。